

中等教育研究開発室年報 第35号 (2022年3月31日発行) 別冊電子版
2021年度 授業実践事例

保健体育科 中学校第3学年

剣道

授業者 信森 正伍

(校内研究授業)

広島大学附属中・高等学校

中学校 保健体育科 学習指導案

指導者 信森 正伍

日時 令和3年7月6日(火)6限
場所 体育館
対象 中学校3年男子後半35人(A組11人 B組12人 C組12人)
単元 武道 剣道
目標

1. 基本打突の仕方と受け方、気剣体一致の打突ができる。(知識・技能)
2. 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自分の考えを他者に伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)
3. 武道特有の伝統的な行動の仕方を大切にし、健康安全を確保することができる。(学びに向かう力・人間性)

指導計画(全12時間)

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1. オリエンテーション及び礼法作法, 基本動作の確認 | 1時間 |
| 2. 防具の着装, 素振り | 2時間 |
| 3. 基本打突の練習 | 4時間 |
| 4. 基本打突の練習・判定試合 | 3時間(本時 3/3) |
| 5. 二段技, 払い技, 地稽古 | 2時間 |

授業について

武道は我が国固有の伝統文化であり、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり、相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

中学3年生の剣道では、気剣体一致の基本打突ができるようにすることを目標としている。しかし、基本動作である体さばきや竹刀操作など、普段の実生活にはないような慣れない動きをすることから苦手意識を持っている生徒も少なくない。また、有効打突の見極めが難しく、何が一本になるか判断しにくいことも課題である。

そこで本授業では、気剣体一致の打突が有効打突につながることを理解させるとともに、気剣体一致の打突をするために何が必要かをグループで考えさせ、自己や仲間の課題を発見し合理的な解決に向けて、仲間同士で意見を出し合いながら考えを深めていきたい。基本打突が正しく打突できるようになり、有効打突の条件を知っておけば、高校生になって取り組む応じ技や試合の審判をする際にも生かすことができると考えている。

本時の目標

1. 気剣体一致で刃筋正しく胴打ちができる。(知識・技能)
2. 見取り稽古や審判などを通して有効打突の見極めができる。(思考力・判断力・表現力)
3. 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて互いに協力しながら、自己の考えを他者に伝えることができる。(学びに向かう力・人間性)

本時の評価基準(観点/方法)

1. 刃筋正しく気剣体一致の打突ができる。(知識技能/活動観察)
2. グループで課題を発見し、自己の考えを他者に伝えるなど互いに協力して学習活動に取り組んでいる。(思考力・判断力・表現力/活動観察・ワークシート)

本時の学習指導過程

指導過程	学習活動	指導上の留意点
<p><導入> 出欠点呼 本時の説明 準備運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6列縦隊で集合，挨拶，点呼。 ・欠席，見学者の有無を確認。 ・前時の復習と本時の課題の確認 ・準備運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・正座で挨拶をする。 ・前時の振り返り
<p>気剣体一致で刃筋正しく胴打ちが打てるようになろう。</p>		
<p><展開> 防具の着装 説明 動作確認 発表 判定試合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・胴・垂を着ける ・胴打ちの説明をする。 ・グループで胴打ちの動画を取って打突の確認をする。 ・グループでまとめた意見を発表する。 ・胴打ちの判定試合を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紐を結ぶのが苦手な生徒は，グループで協力して紐を結ぶ。 ・授業で面を着けて胴打ちをしたことを思い出しながら，打ち方のポイントを振り返らせる。 ・一人ずつ撮影して，気剣体一致の打突ができていないか確認させ，ワークシートに記入させる。(物打ちで打突部位を捉えているか，斜め45度で刃筋正しく打突できているかなど。) ・判定試合に向けてグループで取り組むことを発表させる。 ・審判を三人置き，胴打ちの判定試合を行う。一人一本胴打ちを行い，審判が判定する。記録用紙にスコアも書かせる。グループでワークシートにまとめたことや他のグループの意見を参考に胴打ちに取り組ませる。
<p><まとめ> 片づけ 学習のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防具の片づけ ・本時の振り返り，次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・胴，垂の紐を結ばせる。 ・体調，怪我の確認
<p>準備物 竹刀 胴 垂 iPad 笛 学習プリント ホワイトボード</p>		

中学3年 武道「剣道」

3A 後半

本時の目標：気剣体一致で刃筋正しく胴打ちができるようになるう！

壹、胴打ちの気づきを書こう！（できたこと、できていないこと）

番号	良いところ	課題、できていないこと
13		
14		
15		
16		
17		
18		
例	・打つ前に大きく振りかぶれている	・刃筋正しく打てていない

貳、判定試合に向けてのチームテーマ！

参、本時の振り返りと次の授業に向けて！

胴打ち判定試合

クラス	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	6人目	スコア
赤							
白							

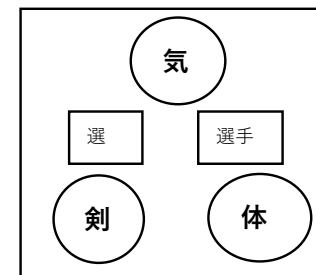
判定基準

氣 其の一、大きな発声で打突できている 其の二、残心がとれている

審判の立ち位置と役割↓

剣 其の一、大きく振りかぶれている 其の二、刃筋正しく物打ちで打っている

体 其の一、構えや打突の姿勢がきれい 其の二、送り足ができています



記入例

クラス	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	6人目	スコア
3A前半	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		
赤	1	3	2	0	3	2	11
白	2	0	1	3	0	1	7
3B後半	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業では、「する」と「みる」の視点から「気剣体一致の正しい打突」と「審判における有効打突の見極め」の2つを目標に授業を行った。理由として、有効打突を理解させることで自らの打突を振り返り、正しい打突に繋げることができると考えたからである。

授業の前半では、グループでipadを使用し、胴打ちの撮影を行った。打突の際、大きく振りかぶったところから斜め45度で打突をすること、刃筋正しく物打ちで打突することを意識させた。これまではペアでの学習が多く、課題に対してお互いに指摘し合う際も、正面から見た気づきを伝えるだけだったが、グループで動作確認を行うことで、横から確認することもでき、刃筋正しく打突できているか、打突部を捉えているかなど、ペア学習では気づけない視点に気づくことができていた。また、自分の動きを映像で確認することで、正しい動きをイメージすることが容易だったと考える。

授業の後半では、胴打ちの判定試合を行った。高校の剣道授業では試合を行うため、審判をする必要がある。実際、高校の剣道授業において、有効打突の見極めや判断が難しく感じている生徒が多くいる。そこで高校生になって審判することを見通して、審判の方法を学ぶことも兼ねて判定試合を行った。試合者にはグループでの胴打ちの練習で指摘されたことに注意させた。審判には有効打突に必要な発声や竹刀操作、打突部位に着目させ審判をさせた。試合者は、前半の胴打ちで確認したことを意識して取り組んでいた。しかし、審判の判定を見ていると、発声や打突の強度が強かったほうが、有利とされる判定が多くあり、改善が必要と感じた。

2. 研究協議より

ワークシートには、映像で確認したことを良かった点とできていない点に分けて記入させた。「斜め45度から打っている」や「正しい打突部位で打っている」など、目標としていた内容を生徒が理解して他者に伝えることができていた。一方で「声が出ていた」「声を伸ばすのが短い」など、発声に関することを記入する生徒が多くみられたため、有効打突に必要な項目ごとに分けて確認させるよう、焦点を絞ったワークシートにしたほうが記入しやすかったのではという意見が出された。また、「残心ができている」などの本授業ではあまり触れることはなかったが、今までの授業で行った内容が記入出来ていた。判定試合では、1対1の対決になるため、勝敗に捉われてしまい、有効打突について考える時間になつていなかった。改善策として、良かったところなど審判から試合者に伝える時間を設けるとよかったという意見が出された。

また、本授業を探究ファクターの視点から頂いた意見を参考に、今後の授業で実践していきたい内容は下記の通りである。

「繰り返す」…撮影の向きや角度を変えて確認させる。

「比較する」…見本となる胴打ちを予め保存しておき、自分の動きと比べる。

「感情移入」…単元の最初に撮影し、それと比べて成長の度合いを確かめる。

このように探求ファクターを活用することで、様々な授業展開が考えられる。限られた授業数の中で、正しい打突を身に付けることや有効打突を理解するために最善な活動は何かを検討し、この先の授業で実践していきたい。